



帝國建軍ノ根本義擁護ニ關スル議

特別  
又6  
8490  
1797  
早稲田大学図書館



秘

帝國建軍、根本義擁護ニ關スル議

客臘、政變以來政治上、論議其、極ニ達シ往々ニシテ憲政ノ  
圓滿ノ運用ヲ名トシテ人氣ニ投シ感情ニ驅ラレテ陸海軍省  
ノ官制改正ヲ喋ロシ其、喧器、大聲動モスレ、建軍ノ要義  
ヲ破壞シ正理ヲ湮没セシムル、虞ヲナシセヌ故ニ左ニ聊々帝國建軍  
ノ根本義ヲ講究シ世界列國ノ事例ニ照シ眞理ノ存スル所ヲ闡  
明スル所アラトス

抑モ軍隊編組ノ要素タルヘキ現役軍人、一意盡忠報國ノ赤誠ヲ  
經トシ献身殉難ノ行為ヲ續トシテ其、身ヲ律シ軍務以外ノ他  
事ヲ顧ミヌ超然トシテ世論ノ外ニ卓立シアルコト肝要ナリ斯、如ク  
ニシテ初テ克ク軍隊ノ皇室、藩屏國家ノ干城タルヘキ重責ヲ全フ  
シ得ルモノトス若シ現役軍人ニ政治ニ干與シ世論ニ容喙スルコトヲ認許  
セム其、流弊ノ及ハス所遂ニ與黨ヲ組織シ衆力ヲ恃頼シテ自己、

二年三月二十一日

意思ヲ貫徹セントスルノ氣運ヲ醸成シ延テ軍隊ヲ政治ノ渦中ニ捲  
キ込ニ干城護國ノ利器ハ却テ國內政争ノ具ニ供用セラレルニ至リ為ニ  
一國建軍上緊要無ニ要件タルヘキ絶對的服從ノ本義ハ破壞セラレ  
水火モ是レ辞セサル純正無垢ナル軍隊ヲシテ全ク其ノ精魂ヲ喪失シテ  
單ニ形骸ノミヲ存スルニ至ラシムヘシ事茲ニ至リテハ國家ノ重鎮、  
平和ノ保障タルヘキ軍隊モ何等内外ニ對スル重寄ヲ托スルニ足ラス  
延テ國運ノ盛衰ニ影響響スルコトナキヲ保シ難シトス殷鑑遠カラ  
ス佛國武力ノ不振、葡國ノ政變、土國國運ノ頓衰、墨國ノ内亂  
等尚ホ吾人ノ耳朶ニ新ナル所ニシテ軍隊ヲ政争渦中ニ投入セシムルノ  
弊毒豈寒心ニ堪ユヘンヤ

忝シク惟ニルニ明治十五年一月畏クモ 先帝陛下、陸海軍人ニ現  
役軍人ノ政治ニ拘ルヘカラサルコトヲ懇諭シ玉ヘリ 聖明ノ深慮ヲ載  
テ照シ 聖諭ノ意義宏遠無量ナリト謂フヘク身軍籍ニ在ル者ハ

勿論一般國民ト共ニ不磨ノ教訓トシテ養マ服膺シ万世論ルコトナキ  
ヲ要ス其ノ他我陸海軍刑法ニ現役軍人ノ政治ニ關シ上書、建白  
其他ノ請願ヲ為シ又ハ演說若ハ文書ヲ以テ意見ヲ公表スル  
コトヲ禁止セリ是レ國家ヲ認メテ現役軍人ノ政治的干與ヲ以テ  
極メテ有害且危險ナリトスルニアラステ何ソヤ所謂上 大元帥  
ヨリ下一卒ニ至ルマテ世論政治ノ外ニ超然トシテ一絲一毫モリトモ之ヲ  
紊亂ヲ許ササルコト明晰ナリ況ニヤ軍政ヲ管理シ軍人軍屬ヲ統督  
シ且統帥權ヲ施行ニ任スル所ノ軍ノ首腦タルヘキ陸海軍大臣ヲシテ  
政黨政派ノ外ニ屹立シ躬行率先範ヲ全軍ニ垂レシムルコトハ國軍ノ精  
氣ヲ健全ニ維持シ軍隊ノ建設ヲ有意義ナラシムル為極メテ所要  
ナリトス是レ官制ニ於テ陸海軍大臣ヲ現役將官ニ限定シテ一般現役  
軍人ト同シク宏遠ナル 聖諭ニ則リ法律ノ制裁ニ服從セシムル所以ナリ  
トス其他軍務ノ專門的智識ヲ要求スルコト他ノ一般行政ニ比シ多

大ナルミナラス 科學ノ進歩駁カレル現時ニ在リテハ 軍政ノ當路者タル  
者ハ須ラク親シク軍務ニ從事シ實際ニ精通スル現役將校ヨリテ  
任用スルコトハ軍隊ノ進歩發達上又極メラ緊要ナリトス

魏テ字内列強ノ制度ヲ觀察スルニ雇兵若シ義勇兵制ヲ採用セル  
邦國ニ在リテハ豫後備役軍人若シ非軍人ヲ以テ陸海軍大臣ニ任命シ  
在リト雖其ノ適否ハ根本制度ニ差違アルヲ以テ暫ク之ヲ指キ今日國  
民皆兵制度ヲ採用セル邦國ニ在リテハ多クハ現役將校ヲ以テ之ニ任  
用シ豫後備役軍人若シ非軍人ヲ之ニ充ツルモノハ稀ニシテ獨壞露  
國ノ如キハ前者ニ屬シ佛國ノ如キハ後者ニ屬スルモノトス而シテ近時ニ於  
ケル佛軍内部ノ情況如何ヲ觀ルニ軍部大臣ノ非軍人タルニ係ハラヌ  
統帥人事等權能ヲ擧ケテ之ニ委任シタルノ結果情實纏綿請托  
公行シ名譽ニシテ貴重スヘキ軍職ハ政客ノ左右スル所トナリ進テ將  
校ノ品位ヲ墜損シ國軍ノ士氣ヲ頽廢セシメ戰場トシテ人拾氣

象趣味ヲ脱却セシムルニ至リ從テ有為慷慨ノ士ハ絶望ノ極續々軍籍  
ヲ去リ殘存セル凡庸ノ輩ハ政黨政派ニ阿附迎合シテ一時ヲ彌縫糊塗  
スルニ止マリテ今ヤ一時全歐ヲ震揚セシメタル佛國軍隊ノ内外ニ對スル威  
信聲望ハ全リ地ヲ拂フノ境涯ニ瀕シツアルニモ拘ハラヌ軍部ノ當  
路者ハ敢テ庸愚頑冥ヲ具ス其ノ器ニ非ラザルモ常ニ政略  
黨略<sup>控</sup>ヲ蒙リテ民意ノ迎合ニ熱中シ之カ為ニハ國軍建設ノ  
要義ヲ犧牲トシ之ニ背馳スル指導施設ヲモ辭セサルノ弊風  
ヲ馴致スルニ至レリ勇敢ニシテ愛國心ニ富ムル敬スヘキ佛國民ニシテ  
而モ技術及產業大ニ發達シテ財力剩リアルモ<sup>猶</sup>昔佛戰役後既ニ  
四十有餘年ヲ經過セル今日猶未タ會稽言ノ耻ヲ雪ク能ハスシテ却  
テ絶エヌ世襲ノ敵國ヨリ制壓セラレ屢々鼎ノ輕重ヲ問ハルル所以  
ノモノハ其ノ原因一ニシテ足ラスト雖武力ノ不振其ノ大原因ト認メタルヘ  
カラス而シテ武力不振ノ主因ハ軍部ノ首腦タルヘキ地位ニ離合盛衰常

ナリ絶エス民意、迎合ニ汲コケル政黨政派ニ屬スル人士ヲ擧用シテ國  
防諸般ノ政務上ニ終始一貫ノ經綸ヲ施シ能ハサルニ在リト認メタルヲ  
得ス是ニ依テ之ヲ觀シテ政黨政派ニ屬シ得ヘキ豫後備役軍人若ハ非軍  
人ヲ以テ軍部ノ首腦ニ充用スルコトハ國軍建設ノ要義ニ背キ併セテ國  
防上ノ大計施設ヲ一貫終始セシムヘキ目的ト全ク牴牾相容レサルノ結果  
ヲ來スノ恐アリト謂フヘシ

方今政黨内閣主義ヲ懷抱スル政家中ニ現行陸海軍官制ヲ以テ  
内閣ノ組織<sup>要義ニ背キ</sup>場合ニ依リト為シ之ヲ改正ヲ主張スル者アリト雖  
是レ全ク特別ナル主權者ヲ有スル帝國憲法ニ照シ認見ソルヲ免レス  
蓋シ行政各部ノ官制ヲ定メ文武官ヲ任免スルハ帝國憲法第十條  
ニ據リ全ク 天皇ノ大權ニ屬シ行政上ノ必要ニ依リ適當ニ之ヲ制  
度ヲ定ムヘキニナリテ帝國憲法上國務大臣ノ任命ハ一ニ 天皇ノ御  
信任ニ依リ國務大臣ハ各自直接補弼ノ責ニ任スヘキモノニシテ彼ノ人民

本位ノ社會的憲法國タル英米ニ於ケルカ如ク議會ニ多ク數ヲ制スル  
政黨ニ於テ内閣ヲ組織スルカ如キ主權ニ非サルコトハ明白ニシテ此等  
論者ノ唱導スル所<sup>畢竟</sup>憲政ノ妙用ヲ誤リシニ政黨政派ノ權力維持  
ノ便否ヲ基礎トシテ<sup>而シテ</sup>神聖ニシテ且他邦ニ卓越セル特長アル帝國憲  
法ノ根本ヲ破壊セムトスルモノニアラスシテ何ソヤ

之ヲ要スルニ現行陸海軍省官制ハ建軍ノ要義ニ叶ヒタル最モ適切  
ナル制度ニシテ永遠ニ之ヲ維持スルコト肝要ナリ若シ夫レ今日世論ニ  
附和シテ強ラ大臣任命ノ範圍ヲ政黨者流ニマテ及ホスニ至ラムカ  
將來光輝アル帝國軍隊ヲシテ社會思潮ノ變遷ニ伴ヒ終ニ佛  
國軍隊ト同一境遇ニ沈淪セシムルニ至ルナキヲ保シ難キヲ以テ之ヲ改正  
ハ邦家百年ノ大計上慎重ナル熟慮ヲ要スルモノト認ム

Handwritten text in a cursive script, likely a letter or a page from a manuscript. The text is arranged in several lines, starting from the top right and moving downwards. The ink is dark and the paper shows signs of age and wear, including some staining and discoloration. The text is mostly illegible due to the cursive style and fading.

